

平成17年度事務事業評価表

担当	教育委員会 部	博物館 課	内線等	8013
事業コード		事務事業名	貸しギャラリー運営事業	
根拠法令等	蒲郡市博物館の設置及び管理に関する条例 蒲郡市博物館管理規則	A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化

②事務事業の内容

対象(受益者)	蒲郡市民に
手 段	絵画・写真・工芸品など、自分たちの作品発表の場を確保することによって
想定する成果	生涯学習の推進と、「文化・感性・活力」にあふれたまちづくりの原動力とする。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
年間使用件数、日数	32件 190日 (準備日含む)	36件 159日 (準備日含む)	32件 145日 (準備日含む)
年間使用料収入	19件 445,200円	14件 327,200円	13件 300,000円
年間ギャラリー入場者数	30,720人	22,424人	20,000人

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	ギャラリー稼働率(準備日含む)	ギャラリー週末(土・日曜)利用率
成果指標の説明	年間ギャラリー使用日数/年間開館日数×100	週末利用件数/年間週末回数×100

⑤事業の進捗状況

(一般会計)

(千円)

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標①	計画	—	—	45.0%
	実績	63.3%	53.2%	—
成果指標②	計画	—	—	65.3%
	実績	86.3%	78.4%	—
事業費	事業費	672	644	736
	人件費	4,018	4,022	3,978
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	4,690	4,666	4,714
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	使用料	445	327	300
	一般財源	4,245	4,339	4,414

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	文化協会など定期的に使用する団体ばかりではなく、サークルや個展にも幅広く利用されている。
経済効率性	2	2	平成15年の改正以来、使用料は据え置いている。低廉な価格での場所提供と受益者負担を天秤にかけるとギリギリのところである。
事務効率性	2	2	単なる貸館業務とは異なり、展示に際しては学芸員の豊富な経験と知識を生かした指導・助言を行なっている。
必要性	3	3	市民へ質の高い発表の場を提供することにより、お互いの研鑽が深まり、生涯学習の推進と向上に役立っている。
小計	9 /12 満点中	9 /12 満点中	
市民参加度	2	2	市民の作品発表の場として定着している。
合計	11 /15 満点中	11 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	平成16年度の実績数値が高いのは、市制50周年記念関連の展示会が多かったためである。以後、数字的には下がり気味なので、ギャラリーを使った企画展も工夫していきたい。週末に来館すれば何かをやっているのが理想である。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> 昭和63年のギャラリーオープン以降据え置いてきた使用料を、平成15年度に維持管理料の増嵩分を反映したものに改正した。 利用者の要望に応え、平成16年度にギャラリー催事案内板を市道沿いの駐車場入り口付近に設置した。 	

⑧今後改善すべき点

市民からは、より広い展示スペースを求められているが、増改築を議論出来る状況にはない。そこで現在は、市と文化協会共催の展示に限り、研修室も開放するなどの工夫をして補っている。
--

⑨平成19年度予算に反映する項目

--

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成17年度事務事業評価表

担当	教育委員会 部	博物館 課	内線等	8013
----	---------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	市史編さん事業				
根拠法令等	なし		A法令	B条例	C規則	Dその他	Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化

②事務事業の内容

対象（受益者）	一般市民に対して
手 段	市制施行50周年を記念し、新しい市史を編集・発刊することによって
想定する成果	蒲郡の原始・古代から現代に至るまでの正しい歴史理解を市民に供し、且つ利用に役立ててもらう。

③事業の概要

本文編（全4巻）	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
印刷製本委託料	0	3,300千円（部分払）	13,221千円（完了払）
印刷セット数	0	0	2,200 部
贈呈セット数	0	0	375 部
販売セット数	0	0	1,000 部

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標の説明	刊行率 (既発刊巻数／予定発刊巻数【本文編4巻、別編4巻】) × 100	販売率（本文編全4巻セット販売） 販売部数／（印刷部数－寄贈部数） × 100

⑤事業の進捗状況

（一般会計）

（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	50.0%
	実績	0.0%	0.0%	—
成果指標 ②	計画	—	—	54.8%
	実績	0.0%	0.0%	—
事業費	事業費	6,801	7,610	17,003
	人件費	10,447	10,457	4,774
	(人数)	1.3	1.3	0.6
	合計	17,248	18,067	21,777
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			9,278
	一般財源	17,248	18,067	12,499

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	1	1	本文編の発刊を、市制50周年の平成16年度中を目指していたが、監修代表者の病氣療養により平成18年4月発刊となった。
経済効率性	2	2	多くの他市町村が、課・係単位で編さん室を設置し正規職員を投入しているが、本市は嘱託職員を中心に担当した。また、執筆者は大学教授等ではなく小中学校教員を起用し原稿料を抑えた。
事務効率性	2	2	原稿をデータ渡しとし、印刷費用の圧縮を図った。
必要性	3	3	本市の歴史を正しく記録保存し市民に提供することは、今後の市勢や文化の発展の基礎をなすものである。
小計	8 /12 満点中	8 /12 満点中	
市民参加度	1	1	編さんにあたっての資料提供では多くの市民の協力を得たが、本文編発刊後の販売状況を見てももう少し周知の努力が必要である。
合計	9 /15 満点中	9 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	C	C	市史編さん事業は、メインである本文編の発刊により一定の役割を終えた。今後の課題は、計画されている別編についてどう取り組むかであり、財政事情等を考慮するとその緊急性や費用対効果を原点に戻って精査する必要がある。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
本文編の発刊をみたので、平成18年度から市史編さん室の嘱託職員を2名から1名に減員し、臨時職員も平成17年度後半から採用していない。	1,923千円

⑧今後改善すべき点

当初の計画では、この後、「資料目録」「ダイジェスト版」「CD」「自然編」の4種類を発刊予定であるが、「CD」「自然編」の2編については、その緊急性や財政事情等を考慮し発刊そのものを見直したい。

なお、本文編の在庫については、おそらく今後50年は新たな市史編さんが難しい状況からすれば、その間の将来的な需要に対応するという意味で、全く無駄なものとは考えていない。ただし、適正在庫の観点から販売努力が必要であることは言うまでもない。

⑨平成19年度予算に反映する項目

学校現場から要望の強い「ダイジェスト版」については、平成19年度中に補助教材として作成し、6年生以上の児童生徒に配布したい。なお、今回の編さん事業では「資料編」を発刊しないので、古文書資料の整理・調査研究や記録保存の観点から「資料目録」についても準備したいが、発刊時期については今後の財政状況を見極めたうえで検討したい。

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ **見直し、縮小** ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】